



暑さもようやく一段落し、朝夕の風には秋の気配が感じられるようになりました。1日の中の気温差が大きくなるこの時期は、体調をくずしやすいときです。毎日の体調の変化にご注意ください。

吐いた! おう吐時のケア、知っておきましょう

1 吐いたものを口から取り除く

口の中に吐いたものが残っていると吐き気を催すことがあります。うがいをさせたり、ぬらしたタオルで口の中をぬぐったりして、口の中をきれいにしましょう。



2 静かにさせて、様子を見る

安静にさせて様子を見ます。寝かせる場合は、吐いたものがのどにつまらないよう、横向きに。



3 1時間以上してからスプーンで水分をとらせる

吐いた直後に水分をとらせると、また吐いてしまうことがあります。水分を飲ませるときは、様子を見て、顔色がよくなり吐き気が治まったら、スプーンで水やお茶などを少しずつとらせましょう。



吐いた!

しっかり消毒、ゴミは密封して捨てましょう

1 処理に必要なものを準備する

まず、換気します。消毒液やペーパータオル、布や雑巾（捨てられるもの）を用意し、使い捨ての手袋やマスクをつけます。

消毒液の作り方

家庭用塩素系消毒薬



6%の原液の場合、
ペットボトルの
キャップ4杯
(1杯=5ml)



水 1L

2 外から中心に向かってふき取る

吐いたものはペーパータオルなどで外から内側に向かってふき取り、ゴミはポリ袋に二重に密封して捨てます。

汚れた衣類は……

汚れを取り除いて消毒液につけておきましょう。



3 消毒した後、水ぶきする

吐いたもので汚れたところを、消毒液を浸した布で外側から中心に向かってふき取ります。その後、水ぶきで消毒薬もふき取ります。

4 よく手を洗う

使い捨ての手袋やマスクもポリ袋に密封して捨て、手をよく洗いましょう。

8月の感染症

熱:46名 ヒトメタニューモウイルス感染症:7名 感染性胃腸炎:24名(うち4名ノロウイルス感染症)
ヘルパンギーナ:2名

園ではお盆前後より感染性と思われる胃腸炎(嘔吐や下痢または両方)の症状のある子が急激に増加。ノロウイルス感染症と診断された子もいます。

県内ではコロナ・インフルエンザ・溶連菌とともに感染性胃腸炎も増加しています。各ご家庭でもご注意していただき、また、症状がある場合は病院受診し、症状がなくなるまで(下痢の場合は普通便が確認できるまで)お休みのご協力をお願いします